

令和 5 年 4 月 6 日現在

機関番号：51303

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K04551

研究課題名(和文) 日本における近世期の御蔵所の空間構成原理及び地方性に関する研究

研究課題名(英文) Study on principles of spatial structures and regional characteristics of Okura-syo in Japan during the Edo period

研究代表者

相模 誓雄 (Sagami, Chikao)

仙台高等専門学校・総合工学科・教授

研究者番号：20295405

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：第一に、近世期の九州地方において諸藩が年貢米徴収のために設けた御蔵所の建築遺構や史料を調査し、熊本藩、柳川藩、小倉藩の御蔵所の建物配置の型式等を明らかにした。第二に、近世期の日本における幕府や諸藩の御蔵所に関する次の空間構成原理及び地方性を確かめた。1) 建物配置には2つの基本形があった。2) 計屋(検査所)は、御蔵所の建物配置を特徴付ける主要要素であった。3) 御蔵の戸前に掛かる長庇は、計屋としての用途を獲得したり、回廊を形成したりして、御蔵所をより機能的にした。第三に、本研究を発展させるため、阿武隈川中流域の信達地方における郷蔵関連施設及び、河口港における幕府の御城米御蔵所の空間構成を検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近世期の日本各地に設けられた施設であるが、建築遺構が僅かであるため、これまでの建築史研究では研究の対象として取り上げられなかった幕府や諸藩の御蔵所の空間構成原理や地方性を検討することで、近世史研究における空白部分を埋めるとともに、日本の近世における建築文化の多様性を証明することができた。さらには、2016年の熊本地震の被災地における旧御蔵の復旧工事に立ち合うなど、活用や未来への継承に向けての視点を提供した。

研究成果の概要(英文)：First, I had researched the former Okura and the historical materials such as a floor plan of Okura-syo that the domains of Kyusyu region in the Edo period constructed for collecting the tax rice. As a result, the types of building arrangement of Okura-syo owned by Kumamoto domain, Yanagawa domain and Kokura domain were clarified. Second, I proved three hypothesis concerning principles of spatial structures and regional characteristics of Okura-syo in Japan during the Edo period. 1) There were two basic styles of building arrangement. 2) An Inspection station which the situation of domains influenced was main factor that characterized the building arrangement. 3) A long eaves which were in front of Okura did the Okura more functional. Third, as a purpose to develop this study, I studied the facilities which concerned Gogura which located along the Abukuma River in the Shintatsu region and the Gozyomai-okura-syo owned by shogunate in the port built on an estuary.

研究分野：日本建築史

キーワード：蔵 屋敷 空間構成 建築史 日本史

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近世期の租税制度に伴う幕府や藩の御蔵所は、全国各地にあって地域の最も重要な施設であったが、建築遺構が乏しく建築史学の研究の対象にならなかった。従って、近世史研究における空白部分になっていた。しかし、重要な御蔵所には施設づくりに関する先人の知恵が詰まっており、近世における建築文化の多様性を知る上でも欠くことのできない一級の研究材料と言えた。貴重な御蔵の遺構は、鳥取県橋津(鳥取藩)、熊本県川尻(熊本藩)や宇土(宇土藩)にあることが知られていた。近年、熊本市において『全国御蔵サミット2010』、鳥取県湯梨浜町において『全国藩倉シンポジウム』(平成27年)が開催されるなど、その貴重な遺産を未来へ継承し、活用するための議論が高まっていた。

また、御蔵所は、水陸交通の要衝である河港集落などにおいて大きな位置を占めており、集落の空間構成に及ぼす影響が大きく、物資運搬や防災にも配慮される必要があることから機能的で合理的な空間構成になっていた。豪雪地帯については調査及び検討が大凡完了しているが、それ以外の地方でも複数の御蔵の建築遺構(3ヶ所)や見取図が見られる地域があるので、九州地方を取り上げて全国規模の検討を行うこととした。

2. 研究の目的

近世期、幕府や諸藩は、年貢米徴収及び廻米のため領内の所々に御蔵所を設けた。藩の財政上最も重要な御蔵所の敷地内には、多数の御蔵や検査所、番屋などの建物が建ち並んでいた。応募者は、我が国の豪雪地帯の御蔵所について、藩毎に建物配置の型式とその形成要因を明らかにし、それらの共通性や違いについて検討してきた。これまでの研究によって、御蔵所の建物配置や御蔵戸前の庇の設け方には規則性がある一方で、検査所などの御蔵以外の施設(以後、作業屋)の在り方に違いがあることが明らかになりつつあった。本研究課題は、豪雪地帯以外の地域の御蔵所について検討し、御蔵所研究の総括として、我が国における御蔵所の空間構成原理及び地方性を解明することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、対象地域における遺構調査及び史料調査が中心となる。第1、2年度は、調査地域毎に小括(発表)を行うこととした。まず、対象とする藩の御蔵所について建築遺構調査及び史料調査を行う。建築遺構がある場合実測により間取り図、断面図等を作製。改築部分を特定し復元図とする。なお、図面がある場合はこれを活用することとした。史料調査では、見取図等の絵図史料や、藩庁日誌等の御蔵所の施設や作事などが知られる古文書を写真撮影により収集することとした。次に、研究成果の発表は、年度毎に学术论文によって行うこととした。

研究を進めるに当たって空間構成原理及び地方性に関して次の仮説を立てた。原理1:我が国の御蔵所の型式には基本形が存在する。原理2:藩の事情がよく表れる作業屋(計屋)は、御蔵所の型式を特徴付ける主たる要素である。原理3:御蔵の戸前に掛かる長庇は、戸口の保護や物資の置き場といった庇本来の目的他に、門の背後の庭と敷地奥を結ぶ主動線の役割がある。

4. 研究成果

1) 御蔵所の空間構成原理及び地方性に関する3つの仮説を証明した。

原理1:

近世期の九州地方における諸藩の御蔵所の建物配置の型式を明らかにし上で、全国における幕府や諸藩の御蔵所の建物配置の基本形を明らかにした。最多は平行型であり、囲い込み型が続いた。これらは基本形と考えられた。

原理2:

計屋を有する御蔵所は、東日本によく見られた。その建物配置の型式は、平行型、囲い込み型、フィンガープラン型の3つであった。基本形における計屋の位置は、基本形の内側、基本形の一部となっている、基本形の外側の3つであった。3つの型式と3つの計屋の位置によって7つのカテゴリーに分け、これらを比較し、形成要因を明らかにした。年貢米徴収において中心的な位置を占めた計屋は、藩によって使い方、主たる使用者や設置経緯が異なるため、その形態等が異なった。このような計屋及び建物配置の型式の違いが御蔵所を多様化させ、各地の御蔵所を特徴づけた。

原理3:

筆者の過去の研究によれば御蔵の庇には、戸口以外の部分にも一続きの庇が掛かるもの(以後「長庇」)や、戸口のみ庇が掛かるもの(以後「戸前庇」)があった。長庇がよく用いられる地域や、両者が混在する地域が西日本によく見られた。御蔵に広い下屋空間を形成する長庇には、吹き放しの開放型と壁で囲まれて部屋となる閉鎖型があった。西日本の御蔵所に顕著な長庇は、閉鎖型に見られたように計屋としての用途を獲得したり、開放型に見られたように回廊を形成したりして、御蔵所をより機能的にしたと結論付けられた。全体を通して見ると、東日本では建物配置の基本型を保持しつつ計屋を機能的に進化させた。一方、西日本では建物配置の基本型に

とられず、長庇や門を多用してより生産性の高い建物配置の御蔵所を実現したことが明らかになった。

2) 本研究課題の成果を応用・発展

これまで検討してこなかった河口港における廻米に特化した御蔵所について検討し発表した。これとの比較によって、本研究課題が対象とした年貢米徴収用の御蔵所の空間構成の本質、独自の空間形成手法を用いた地域においてその原因が明らかになると考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 8件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 SAGAMI Chikao	4. 巻 86
2. 論文標題 STUDY ON SPATIAL STRUCTURES OF OKURA-SYO IN JAPAN DURING THE EDO PERIOD (PART 2) : CONDITIONS THAT FORMED THE TYPE OF BUILDING ARRANGEMENT	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ)	6. 最初と最後の頁 2326 ~ 2336
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aija.86.2326	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 SAGAMI Chikao	4. 巻 87
2. 論文標題 STUDY ON SPATIAL STRUCTURES OF OKURA-SYO IN JAPAN DURING THE EDO PERIOD (PART 3) : ABOUT THE SPATIAL FORMATION BY "NAGA-HISASHI" (LONG EAVES THAT COVER AROUND THE ENTRANCE)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ)	6. 最初と最後の頁 411 ~ 422
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aija.87.411	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 SAGAMI Chikao	4. 巻 86
2. 論文標題 SPATIAL STRUCTURES OF FACILITIES CONCERNING GOGURA THAT LOCATED ALONG THE ABUKUMA RIVER IN THE SHINTATSU REGION IN THE EDO PERIOD	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ)	6. 最初と最後の頁 2337 ~ 2346
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aija.86.2337	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 SAGAMI Chikao	4. 巻 87
2. 論文標題 STUDY ON SPATIAL STRUCTURES OF OKURA-SYO LOCATED A PORT BUILT ON AN ESTUARY IN THE EDO PERIOD (PART 1): GOZYOMAI-OKURA-SYO IN THE ARAHAMA PORT	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ)	6. 最初と最後の頁 2007 ~ 2016
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aija.87.2007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 SAGAMI Chikao	4. 巻 85
2. 論文標題 STUDY ON THE SPATIAL STRUCTURES OF GO-OKURA-SYO OWNED BY THE KOKURA DOMAIN IN THE LATE EDO PERIOD	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ)	6. 最初と最後の頁 1779 ~ 1788
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aija.85.1779	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 SAGAMI Chikao	4. 巻 86
2. 論文標題 STUDY ON SPATIAL STRUCTURES OF OKURA-SYO IN JAPAN DURING THE EDO PERIOD (PART 1): INFLUENCE ON BUILDING ARRANGEMENT OF OKURA-SYO BY AN INSPECTION STATION	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ)	6. 最初と最後の頁 1063 ~ 1072
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aija.86.1063	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 相模誓雄	4. 巻 85
2. 論文標題 近世期の柳川藩御蔵所の空間構成に関する研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本建築学会計画系論文集	6. 最初と最後の頁 1079, 1088
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aija.85.1079	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 相模誓雄	4. 巻 759
2. 論文標題 近世期の熊本藩御蔵所の空間構成に関する研究 (その1) -御蔵所の空間構成の特徴と形成要因-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会計画系論文集	6. 最初と最後の頁 1209, 1219
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aija.84.1209	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------